

# 日銀の視点

株価上昇や新NISA(少額投資非課税制度)のスタートなどで、投資への関心が高まっている。「何を買つのが良いのか?」、「買い時、売り時はいつか?」といったことが気になることもあるだろう。

もともと、相場見通しに基づき短期で売買を繰り返してもつげようとするには、リスクに関する高度な知識と管理能力が必要であり、一般の方(特に初心者)には勧められない。仮に行つても、全額が損失となつても生活に困

上野 淳

日銀水戸事務所長

らない金額にとどめておくのが賢明であろう。日々の相場変動に一喜一憂し、売ろうか、買おうかと考え続けていると、仕事にも手がつかなくなりかねない。

では、一般の方は投資をし  
きる。それが、「積立・分散  
・長期」投資だ。  
まず、「積立」は、あらかじめ決めた金額を継続的に投資すること。計画的にこつこつと資産形成できる。また、安い時に多く買うことがで

とができ、その後再び株価が上がった時のリターンを大きくできる。  
次に「分散」。一つの資産だけに投資するよりも、値動きの異なる複数の資産に分散投資することで、リターンの安定化を期待できる。例えば、A株のみに投資しているとき、A

ターンが安定化し、大きな損失が発生する可能性も低くなる。多くの種類の資産を買って管理するのは容易ではないが、「投資信託」といわれる金融商品(例えば、インデックスファンド)を的確に選んで購入すれば、少額から手軽に分散投資の効果を享受できる。そして「長期」。購入したものを長期間保有し続ける

## 「積立・分散・長期」の効用

ない方が良いのかというところ、決してそうではない。投資に「絶対もつかる」とか、「絶対損しない」はないが、工夫により、損失発生の可能性を低くしながら、ある程度のリターン(収益)を獲得できる可能性を高めることが期待で

き、平均購入価格を低くできる。例えば、「A株を毎月1万円購入する」との積立投資の場合、株価が1株1000円の月には10株を購入する。株価が半値(1株500円)に下がってしまった月には、倍の量(20株)を購入する。

社の業績不振だけで投資額が大幅に毀損してしまつリスクがある。それよりも、業種も異なるさまざまな会社の株式を購入したり、さまざまな種類(株式、債券等)や国・地域の金融資産を購入したりしておいた方が、全体としてリ

性を低減できる。  
投資は自らの判断・責任で行つ必要があるが、「積立・分散・長期」を意識してみたいかがだろうか。  
(次回は6月8日掲載)